自己研修報告書

氏名　豊瀬　和久

視察研修先	宮崎県臼杵郡椎葉村図書館「ぶん文Bun」
期　日	令和4年10月12日（水）
研修テーマ	全国に誇れる図書館にしたい。という思いを実現させるための様々なアイデア、情報発信や運営の状況
研修報告 意見・感想	椎葉村は、人口約２５００人、面積５３７．３ km²の９６％が山林で１０００mを超える峻険な山脈にあり、日本三大秘境と言われているところです。 平家落人伝説が伝わるなど独自の文化を有し、ひえつき節をはじめとする民謡などを大切に継承されています。 そのような椎葉村につくられた「図書館ぶん文Ｂｕｎ」を視察して感じたことは、椎葉村の特産である日本みつばちの気に入った巣箱に帰るという習性と同じように、子どもたちが帰りたい場所をつくるというコンセプト（基本構想）がしっかりと定まっており、そのようなコンセプトのもとで、東京から赴任した地域おこし協力隊を中心に村の課題である人口維持に役立つＵターンを生む図書館として、九州初である蔵書管理手法を用いて、本を読むだけではなく、眺める、遊ぶなど様々な使い方ができるよう立体的な本棚を利用されるなど様々な工夫をされていました。 各本棚のテーマ分けも独自で考えられたもので、地元の暮らし方に沿った展示をされるとともに、マンガも大切な文化として所蔵されていました。 以上のように、住民が自由におしゃべりをしながら、寝込ろんで、コーヒーを飲みながら読書ができる環境づくりや、そのような取り組みをＳＮＳやウェブサイトで広く発信をおこなっていることなどが住民満足度を高めている要因だと思います。 また、地域おこし協力隊が思う存分に力を発揮できる環境を整える中で、さまざまな取り組みが進められたこともいい事例です。。 おおづ図書館においても、時代の変化や町民ニーズの変化を的確に捉え、それらに対応していけるように変えられることから変えていかなければいけないのではないでしょうか。 まずは、近年、価値が評価され社会に受け入れられているマンガを所蔵することや、会話と飲食の自由化などに取り組んでいくべきではないかと思います。